研究員コラム㉞

「個人投資家の高まるESG投資への関心」

日本最大級の個人投資家向けIRイベント「日経IR・投資フェア2017」が8月25、26日の両日にわたり開催された。今回で12回を数えるイベント会場は、大勢の個人投資家で賑わい、翌日の公式発表では両日で17,346名を集めたと報告された。会場内に設けられた5つの説明会場では各社トップによる会社説明会が、そして各企業ブースではミニ説明会も多数行われた。そこではビジネスモデルほか見えない資産を説明する人材育成など、非財務情報が詳しく説明されていた。

このイベントの中で、一橋大学　伊藤邦雄特任教授による「持続的成長が可能な企業とは～企業のESG情報を読み解く～」と題した基調講演を拝聴した。講演テーマが「ESG」に関する内容と分かるものであったためか定員を超え、抽選となるほどの関心の高さであった。参加者は講演中メモを取るなど熱心に聞いていた。

伊藤教授が「ESGをご存じか」と挙手を求めたところ400名程の聴講者の約2/3以上が手を挙げた。このイベントでは、これまで参加者の属性をアンケートにより調査されているが、企業の情報を積極的に収集する株式投資経験のあるアクティブな個人投資家達だ。やはりその意味でもESG投資やその情報に敏感だったのだろう。当研究所でも過去に個人投資家のESGに関する認知度調査を行いその意識の高さを認識していたが、今回のイベントに参加し改めてそれを実感することが出来た。

講演の内容は、経産省が発表した伊藤レポート2.0と言われる「価値協創ガイダンス」を個人にもわかりやすく説明したものだった。伊藤教授は、投資家が企業価値を評価する上で企業のビジネスモデルや、経営戦略、リスクへの対応等の非財務情報が重要になっており、当ガイダンスでは、企業経営者が自ら経営理念や、戦略、ガバナンス等を統合的に投資家に伝えることが重要だと訴えた。この考え方からも機関投資家に限らず個人投資家へも直接語り掛け、自社の魅力を伝えることが出来る今回のようなイベントは大変に有益だと語った。講演は更に「インパクト投資」の説明にも及んだ。この投資は教育や福祉などの社会的な課題の解決を図ると共に、経済的な利益を追求する投資行動であり、社会的企業への投資を行う社会貢献型スタイルで社会問題解決第一主義と考えられ、その結果リターンを共有するCSV（Creating Shared Value）的な発想であると説明した。

この種のIRイベントが始まったのは10数年以上前になる。当時はCSRが盛んになった頃で、企業も決算数値だけではなく良き企業市民であることをアピールするために、社会的な貢献活動として寄付やボランティア活動を推進していた。エコファンドやSRIファンドも販売されたが、期待していたほどにはならず浸透したとは言えない状況であった。しかし、スチュワードシップを含むガバナンス改革の始まりにより状況に変化が現れた。ESG投資は長期的に企業価値の向上を促し、そのことにより投資家は着実にリターンを得られる事が分かってきた。これまでは、このような投資スタイルは機関投資家のみの行動で、個人投資家はどちらかというと蚊帳の外から見ていると言う感覚であったが、このイベントを通じて個人投資家がESG情報に着目をし始めていると感じられた。企業は、機関投資家偏重にならず重要なステークホルダーである個人投資家の存在も忘れてはならない。

ESG投資がメインストリームとなりつつある現在、このような投資家全体の投資行動が資本市場におけるインベストメントチェーンに好循環を生むことになろう。

（文責：ESG/統合報告研究室　上席研究員　大津　克彦）

無断で複製・転載したり転送することを禁じます。　Copyright(C) Disclosure＆IR Research Institute LTD. All Rights Reserved.